

日韓5大会 完歩

過酷ウオーキング 日本人初の認定 全644キロ制覇

北栄町由良宿の青木健さん(70)と倉吉市上井の中原都さん(65)が、日韓の五つの過酷なウオーキング大会を1年で歩く「日韓ウオーキングゴールドテングランドスラム公式大会」を制覇し、「ファイブスター(五つ星)」に認定された。2人ともウオーキング歴は5、6年ながら、初挑戦での快挙達成。日本人の認定は初めて。



初挑戦の青木さん(北栄) 中原さん(倉吉)

大韓ウオーキング連ス。群山大会は世界最盟(李康玉理事長)が長のセマングム防潮堤主催する4大会(原往復66キロを12時間で歩州。済州、蔚山、群山)。制限時間もあり、大会に、親交のあつスピードを求められるた同市のNPO法人未まさに「超人ウオー来(岸田寛昭理事長)ク」。

が主催する100キロ。一昨年、青木さんとオークを加え、201 中原さんは、SUN-3年に日韓共同開催と IN未来100キロオさんは引退する気持してグレードアップさークに出席。完歩したちもあつただけに「昨中原さんは李理事長から、原州100キロ大から、11月にかけてあり、会への誘いを受け、青た計算。まだいけると総延長は644キロ。最木さんを誘った。「体自信がついた」と喜最終的に12人の「猛者」力があるうちにできる

が誕生した。済州大会(ことほはおこう)。最後は猛暑の中、1日50キロ。後のチャンスかも」とを5日間歩き続ける持2人の挑戦が始まった。久力・忍耐力・精神力だ。

の強さが試され、蔚山 青木さんは炎天下の大会は2日間、それぞれ中、脱水症状になり、た一達成感でいっぱい約60キロの起伏の激し 何度もふらつき、曇いだ。いトレッキングコーとの闘いの連続。ま

ができた足を、引きずりながらも歩いた。中原さんは、平坦な直線コースと高をくくっていた群山大会で苦しんだ。単調な景色は逆に疲れが蓄積し、残り20キロ地点で足がけいれん。制限時間のぎり

ぎりの2、3分前に、何とか挑戦し続けたい」と振り返る。青木さんは「体調管理に気を付け、この年齢で挑戦できたのは一番の喜び。いつまでも

中原さんは「体調管理に気を付け、この年齢で挑戦できたのは一番の喜び。いつまでも何とか挑戦し続けたい」と振り返る。青木さんは「体調管理に気を付け、この年齢で挑戦できたのは一番の喜び。いつまでも

中原さんは「体調管理に気を付け、この年齢で挑戦できたのは一番の喜び。いつまでも何とか挑戦し続けたい」と振り返る。青木さんは「体調管理に気を付け、この年齢で挑戦できたのは一番の喜び。いつまでも